

市川市立図書館のメールマガジンをお送りいたします。

「メールでのサービス」で配信をご希望された方へお送りしています。

□ ■ □ -----  
■ □ ■ 市川市立図書館メールマガジン 第 141 号 2018.1.20  
□ ■ □ -----

今日 1 月 20 日は、1 年で最も寒さが厳しくなる大寒です。毎日寒い日が続きますが、中央図書館の花壇では、冷え込んだ朝には霜柱ができており、朝日にキラキラと輝く様子を見ることができます。

■ ■ 図書館からのお知らせ □ -----

◆ 行徳図書館リサイクルブック市のご案内

○ 行徳図書館で不要になった図書・雑誌などをおひとり 5 冊まで差し上げます。

<日時> 1 月 27 日（土）10 時から 15 時まで

<場所> 行徳公民館 3 階レクリエーションホール

○ 入場入替制です。入場できる人数に制限があります。

○ 入場には整理券が必要です。当日 9 時 30 分より、行徳図書館 2 階エレベーター前で整理券をお配りします。整理券番号順でのご入場になります。

○ 持ち帰り用の袋等は各自ご用意ください。

○ 公共交通機関、自転車、又は徒歩等でご来場ください。

「行徳図書館リサイクルブック市」のご案内はこちら

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/info/1085-18.html>

◆ 「図書館だより No.100」を発行しました。

○ 今号は 100 号発行の特別号です。特集は、「図書館サービスのいまとこれから」。また、付録として今まで発行した「図書館だより」の特集をリストにしています。

○ 「図書館だより」は各図書館で配布しているほか、図書館ホームページからもご覧いただくことができます。

「図書館だより No.100」はこちら

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/db/1008.html>

■ ■ 読んでみませんか ー犬の本ー □-----

○2018年の干支は戌（いぬ）。

ペットフード協会による2017年の調査では、猫の推定飼育数が1994年の調査開始以来初めて、犬の数を上回りました。

犬の飼育頭数は減少傾向ですが、犬は人間と暮らし始めた最も古い動物で、いつでも人間の傍らには犬がいました。また、盲導犬や介助犬、警察犬、災害救助犬など様々な場面で活躍しています。

とにかく犬が好きという方も、犬はちょっと苦手という方も、今年は犬の本を読んでみませんか？

中央図書館では、1月末頃まで犬の本を集めた小展示をしています。

○犬をテーマにした本をいくつかご紹介します

◇『全国の犬像をめぐる：忠犬物語 45話』青柳健二／著（青弓社 2017）  
犬像といえば、渋谷駅の「忠犬ハチ公」や、上野公園の「西郷隆盛と愛犬の像」を誰もが思い浮かべるのではないのでしょうか。この本は、犬連れで全国を巡った著者が、各地で出会った犬像とその物語を紹介しています。

2015年に東京大学農学部に建てられた新しいハチ公像は、「ハチ公と上野英三郎博士像」。ハチ公が飼い主の上野博士に飛びつく嬉しそうな姿に「会えてよかったね！」と声をかけたくくなります。

◇『いと：運命の子犬』原田マハ／文，秋元良平／写真（文藝春秋 2011）  
ゴールデンとラブラドルの血を引く、なんとも表情ゆたかな犬「いと」は介助犬になるための訓練を受けていましたが、介助犬にならずキャリアアチェンジをすることになります。その後「いと」はどうなるのでしょうか。

作家・原田マハが、「いと」とその家族をめぐる絆を描いたノンフィクションです。

◇『作家の犬 2』コロナ・ブックス編集部／編（平凡社 2013）

井上ひさしの小説『ドン松五郎の生活』は、小説家の家で暮らす犬が主人公の物語ですが、井上ひさしが、市川市に住んでいた頃、実際に飼っていた柴犬の名前がドン松五郎です。

市川市にあった自宅の軒先でのドン松五郎、またドン松五郎の妻ピッピと市内を散歩する井上ひさしの写真も納められています。  
前作の『作家の犬』と2巻にわたり、犬愛にあふれる作家たちのエピソードが綴られています。

.....  
◇メールマガジンの登録・解除はこちら

<https://opac.city.ichikawa.chiba.jp/winj/opac/top.do>

◇このメールは自動配信されています。このアドレスに返信いただいても内容の確認およびご返答ができません。ご了承ください。

---

市川市中央図書館

〒272-0015 千葉県市川市鬼高 1-1-4 047-320-3346

---